

第77回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：2025年6月14日(土) 9：25～10：10

口演発表 9：30～10：10

会 場：奥羽大学 附属病院棟 5階 臨床講義室

連絡先：福島県郡山市富田町字三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

- ・受付は会場入り口に設けます。
- ・会場の座席は順番につめてご着席ください。
- ・討議にはマイクをご利用ください。

発表者の方へ：

液晶プロジェクターによる口演

- ・単写のみで、データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。
- ・学会のコンピュータはWindowsのみです。
- ・利益相反（COI）の開示：COIの有無に関わらずスライド 2 枚目でCOIを開示してください。
- ・前日の試写時に、データファイルをUSBフラッシュメモリーで提出してください。
- ・発表当日は学会のコンピュータで実行しますので、特殊なフォントは埋め込んでください。
- ・学会開催前日の午後5時から、試写を行います。データをお持ちになり会場にお集まりください。その際、念のためご自身のPCも一緒にお持ちください。
- ・演者は、口演開始10分前に、次演者席に着いてください。
- ・口演時間は口演 8 分、討論 2 分の計10分です。

時間の経過については、ベルで合図いたします。

7分経過（口演終了1分前）；ベル1回

8分経過（口演終了）；ベル2回

10分経過（質疑終了）；ベル3回

- ・口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ちください。
- ・発表者は6月16日(月)16時までに、800字程度の事後抄録を、学会担当 前田豊信宛にメール添付して、送信ください。

【問合せ先】学会担当 前田 豊信（口腔機能分子生物学講座）

電話：024－932－8931，内線3524 e-mail:t-maeda@den.ohu-u.ac.jp

第 77 回 奥羽大学歯学会プログラム

9 : 25 ~ 開 会 の 辞

瀬 川 洋 会長

一口演発表（学位口演 3 演題、一般口演 1 演題）

座長 川 原 一 郎

9 : 30 ~ 9 : 40

1. マウスストローマ細胞 (ST2) でのBEST3遺伝子過剰発現の影響

○小須田一剛¹、前田豊信²、川鍋 仁^{1,3}

(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・口腔機能分子²、奥羽大・歯・成長発育歯³)

研修コード0802 関連項目 (1) 1107 (2) 1104

9 : 40 ~ 9 : 50

2. 口唇口蓋裂患児に対する術前顎矯正治療が硬軟組織形態に与える影響

○荻野早紀¹、川鍋 仁^{1,2}

(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)

研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0801

9 : 50 ~ 10 : 00

3. 乳前歯コンポジットレジン冠修復における歯頸部辺縁形態が破折防止に与える影響

○小林陽子、島村和宏

(奥羽大・大学院・加齢口腔科学・小児歯科)

研修コード0801 関連項目 (1) 0412 (2) 1109

10 : 00 ~ 10 : 10

4. 新型コロナウイルス感染症の流行前後での奥羽大学における献体業務の傾向変化について

○櫻井裕子、芹川雅光、宇佐美晶信

(奥羽大・歯・生体構造)

研修コード1101 関連項目 (1) 0101 (2) 1199

10 : 10 ~ 閉 会 の 辞

安 部 仁 晴 副会長

口 演 発 表 抄 録（学位口演発表）

9：30～9：40

1. マウスストローマ細胞 (ST2) でのBEST3遺伝子過剰発現の影響

○小須田一剛¹、前田豊信²、川鍋 仁^{1,3}

(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・口腔機能分子²、奥羽大・歯・成長発育歯³)

Bestrophin3 (BEST3) にはいくつかの機能が知られているが、近年、下顎前突症患者の全エクソーム分析から、BEST3 をコードする遺伝子に非同義一塩基変異 (SUV) があることが報告されている。しかし、この具体的な BEST3 の機能については不明なままである。

今回、我々は BEST3 が間葉系分化に及ぼす影響について実験を行った。

その結果、骨芽細胞の BEST3 は、RANKL と M-CSF の発現促進を通して破骨細胞の分化・活性化を誘導している可能性が示唆された。

研修コード0802 関連項目 (1) 1107 (2) 1104

9：40～9：50

2. 口唇口蓋裂患児に対する術前顎矯正治療が硬軟組織形態に与える影響

○荻野早紀¹、川鍋 仁^{1,2}

(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)

我々は口唇口蓋裂患児に対するチームアプローチにより術前顎矯正治療後に口唇・顎・口蓋を一回の手術（以下、一期手術）で行う一期治療を採用している。

一期治療が口唇形態に与える影響について、初回検査時および術前顎矯正終了時に3D 画像撮影解析装置により採得した顎顔面形態画像と nasoalveolar molding plate（以下、NAM）製作時に採得した口腔内模型を用いて評価した。

本研究において口唇裂幅・顎裂幅ともに減少していた。

口蓋裂患児に対する NAM を用いた術前顎矯正治療は、顎裂部および口唇裂の狭小化を図ることが示唆された。

研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0801

9 : 50 ~ 10 : 00

3. 乳前歯コンポジットレジン冠修復における歯頸部辺縁形態が破折防止に与える影響

○小林陽子、島村和宏

(奥羽大・大学院・加齢口腔科学・小児歯科)

小児のコンポジットレジン冠修復で、永久歯より歯質の薄い乳歯では歯質保護と修復物破折防止への対応が必要である。長期間維持のためには、支台歯の辺縁部形態に工夫が必要だが、これまで各種成書で推奨される形態には根拠が示されていなかった。そこで本研究では、乳前歯の CR 冠修復支台歯形成における歯頸部形態の違いによる破折への影響を検討した。その結果、支台歯窩縁形態の違いにより圧縮強度に有意な差が認められた。

研修コード0801 関連項目 (1) 0412 (2) 1109

10 : 00 ~ 10 : 10

4. 新型コロナウイルス感染症の流行前後での奥羽大学における献体業務の傾向変化について

○櫻井裕子、芹川雅光、宇佐美晶信

(奥羽大・歯・生体構造)

2019年に中国・武漢市を中心に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、日本においても感染予防を徹底した新たな生活様式が促され、社会的に大きな変化が生じた。本発表では、新型コロナウイルス感染症の流行前後での社会的変化が、奥羽大学における献体業務にどのような影響を与えたのかを明らかにすることを目的としている。

研修コード1101 関連項目 (1) 0101 (2) 1199

第78回奥羽大学歯学会予定
日時：2025年11月8日(土)

—歯学会学会委員—

金 秀樹（口腔外科）*、前田豊信（口腔機能分子）*、宇佐美晶信（生体構造）、
島村和宏（成長発育歯）、菊井徹哉（歯科保存）、南 健太郎（口腔衛生）、
小嶋忠之（口腔外科）、小林美智代（口腔衛生）、山家尚仁（口腔病態解析）、
内山梨夏（歯科補綴）、古山 昭（口腔機能分子）

*学会委員会理事
